

こぞうさんのおきよう

にいみ
新美
なんきち
南吉

やまでらの おしろうさんが びようきに
なりましたので、かわりに こぞうさんが だん
かへ おきようを よみに いきました。
おきようを わすれないように、こぞうさんは
みちみち よんで いきました。

キミヨ
ムリヨ
ジユノ
ライ

すると なたねばたけの なかに うさぎが
いて、
「こぼらず あおぼらず。」
と よびました。
「なんだい。」

「あそんで おいきよ。」
そこで、こぞうさんは うさぎと あそびまし
た。しばらくすると、
「やっ しまった。おきようを わすれちゃっ
た。」
と こぞうさんが さげびました。

すると うさぎは、
「そんなら おきようの かわりに、

むこうの ほそみち
ぼたんが さいた

と おうたいよ。」
と おしえました。
こぞうさんは だんかへ いきました。そして、
うさぎの おしえて くれたように、ほとけさま
の まえで、

むこうの ほそみち
ぼたんが さいた
さいたが さいた
ぼたんが さいた

と かわいい こえで うたいました。
きいて いた ひとびとは びつくり して
目を ぱちくり させました。それから くすく
す わらいだしました。こんな かわいい おき
ようは きいた ことが ありません。
そこで、ごほうじが すむと、だんかの ごし
ゆじんは すました かおで、
「はい、ごくろうさま。」
と、おまんじゅうを こぞうさんに あげました。
「ごちそうさま。」
と、こぞうさんは おまんじゅうを いただいて
たもとに いれました。
こぞうさんは、かえりに その おまんじゅう
を、さっきの うさぎに わけて やることを
わすれませんでした。

「こぞうさんのおきょう」

底本 新装版『新美南吉童話集
1 ごん狐』（2012年・大日本
図書株式会社）所収「こぞうさ
んのおきょう」

※このテキストを個人的に読む
以外の利用をされる場合には、
新美南吉記念館までご連絡くだ
さい。（TEL:0569-26-4888）